



北九州市 民児協だより

支え合う
住みよい社会
地域から

第55号
令和7年1月1日発行



●発行/北九州市民生委員児童委員協議会 ●発行者/会長 中杉 長男 ●企画・編集/広報委員会
☎804-0067 北九州市戸畑区汐井町1番6号 ウェルとばた8階 北九州市社会福祉協議会内 ☎093-873-1296/FAX093-873-1351

新春のご挨拶

北九州市民生委員児童委員協議会

会長 中杉 長男

(小倉北区)



慶びを申し上げます。

また、常日頃よりひとり暮らし高齢者や生活困窮者など支援を必要とする世帯への見守りを中心とした地域福祉活動に多大なるご尽力をいただいていることに、心から感謝申し上げます。

さて、現在わが国では、人口減少や少子高齢化などの人口構造の変化、単身世帯の増加や地域のつながりの希薄化などの社会構造の変容によりまして、育児、介護、障害、貧困、ひきこもり、孤独・孤立など多様な課題への対応や、これらが複合化した課題を持った個人・世帯への支援が必要とされてきています。こうした変化に伴い、私たち民生委員・児童委員には、日頃からの顔の見える関係づくりや、支援の必要な人に寄り添った対応がより一層求められています。

こうした中、国においては、年々厳しさを増す民生委員・児童委員のなり手確保を念頭に、「民生委員・児童委員の選任要件に関する検討会」を設置し、議論が行われているところです。

本会においても、北九州市や社会福祉協議会をはじめとする関係者との調整を図りながら、民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりを進めるとともに、今年の一斉改選に向けた準備を進めたいと思います。

今後とも誰もが安心して自立した生活を送ることができる社会に向けて、活動のさらなる充実を目指してまいりたいと思っておりますので、皆様の変わらぬご支援・ご指導をお願いいたします。

おわりに、皆様のますますのご活躍とご健康を心より祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

報告

令和6年度 北九州市民生委員児童委員大会

日程：令和6年11月29日(金)

場所：J:COM北九州芸術劇場大ホール



岩谷まゆみ氏による代表謝辞



式典の様子

去る11月29日(金)、北九州芸術劇場ホールにて令和6年度北九州市民生委員児童委員大会を開催しました。今大会は、八幡東区が当番区として、大会の進行や会場設営、誘導等を行い、市内から多くの民生委員が参加しました。第1部の式典では、大庭副市長および本田副議長から、民生委員・児童委員に関する感謝の言葉をいただきました。その後、表彰においては受賞者210名と1地区を代表して、九州社会福祉協議会連合会会長表彰を受賞した岩谷まゆみ氏(八幡東区大蔵地区)が代表謝辞を務めました。

続く第2部では、特定非営利活動法人にじいるCAPの重永侑紀代表理事を講師にお招きし、「すべての子どもが生まれよかつた」と思える社会に」と題し、ご講演いただきました。自らの子ども時代の話を通して、民生委員・児童委員としてどのように子ども達と関わっていくかについてわかりやすくご教示いただき、盛況のうちに大会は終了しました。



講師 重永 侑紀



日程:令和6年11月20日(水)~21日(木) 場所:シーガイアコンベンションセンター

この大会は全国の民生委員・児童委員および民児協関係者の参加により開催され、今年度は本市から民生委員・児童委員37名と事務局が参加しました。

大会1日目は、式典、表彰、特別講義、大会宣言、アトラクションが行われ、本市からは優良地区民児協として小倉南区の東朽網地区、功労者表彰に5名、永年勤続表彰に123名が表彰されました。

また、特別講義では、東京や台北、シリコンバレー等に支店を置き、宮崎県新富町で「きぐるみ制作会社KIGURUMI.BIZ」を経営している加納ひろみ氏による講演がありました。自身がシングルマザーを経験し、女性が働き続けることのできる職場環境づくりに早くから取り組まれています。「向こう側の笑顔の前に、まずこちら側が笑顔になる必要がある」という言葉など、自分自身が幸せであることの大切さを語る加納氏の姿が強く印象に残りました。

大会2日目には、活動交流集会・シンポジウムも開催され、全国各地の活動事例の紹介と活動に関わる課題を通して、今後の活動のヒントを学ぶ機会となりました。



式典の様子



参加者全員での集合写真

特集

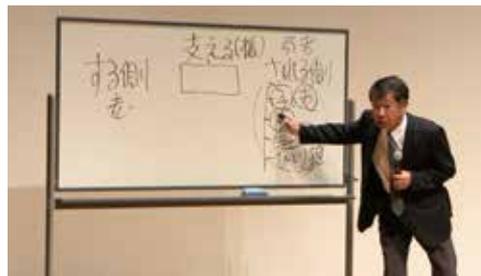
令和6年度 中堅民生委員・児童委員研修会

日程:令和6年10月31日 場所:ウェルとばた3階 中ホール

中堅民生委員・児童委員としての役割や、対人支援等の方法を学ぶことを目的とした研修会を就任2期目の民生委員・児童委員を対象に開催しました。

今回は、106名の委員の参加があり、「民生委員・児童委員の対人支援における考え方とその方法」と題し、昨年に引き続き、九州大谷短期大学 幼児教育学科 教授の中村先生にご講演をいただきました。

100分の講義の中で、民生委員法の内容から信頼関係の作り方や社会福祉協議会の活動等について幅広くお話されました。中でも、民生委員・児童委員、主任児童委員は、多様化・複雑化する生活課題を発見し、そのニーズをつなぐ役割があること、また、住み慣れたまちで安心して暮らしていくためには、民生委員・児童委員だけが抱え込むのではなく、地域住民がみんなで支え合うことが重要であると熱く話され、参加者が勇気づけられる有意義な研修会となりました。



九州大谷短期大学 教授 中村 秀一 氏



熱心に受講する2期目の民生委員・児童委員

戸 第40回リレーエッセイ

「ひよっここ踊り」は、宮崎県日向市発祥の豊作、商売繁盛を願う踊りです。その踊りを我が朽網の日豊ニュータウンの老人会が、機会あるごとに披露してきました。今年度、朽網小で福祉体験などを行ったウエルクラブ生に、ていねいに伝授願ひ、かわいい小学生たちは、朽網緑日なつまつり、4回にわたる校区敬老会、朽網文化祭で2回の計6回、「ひよっここ踊り」を地域の人に初見参しました。私も小学生に交じって、踊りの練習をしたのですが、何せ70の手習い、小学生の上達の早いのに驚きました。今の子どもは、学校の体育大会でダンス競技が取り入れられていたり、体を動かすことには抵抗がないようです。一番下手くそな私が、なつまつりで、しんがりについて法被にお面をかぶり踊る姿を想像してみてください。我ながらお笑い草とは思えません。踊りの練習を通して地域の高齢者と子どもたちとのふれ合いもありました。また、朽網の「ひよっここ踊り」を校区のささやかな伝統として続けていけたらと考えています。

「ひよっここ踊り」
in 朽網

小倉南区朽網地区

民生委員児童委員協議会

会長 深田 清司



○永年、民生委員・児童委員として地域で活動されているお2人にやりがいや活動の秘訣、大切にしてきた思いなどのお話を伺いました。

民生委員・児童委員の活動をはじめたきっかけ

子どもが3人おり、幼稚園・小中高とずっとPTA活動に携わってきたつながりの中で、民生委員・児童委員(以下、民生委員)に推薦されたのがきっかけです。推薦された当初は、子どものことについて何か困りごとを相談される仕事というイメージはありましたが、具体的に何をしているのか、実はよくわかりませんでした。



馬場 京子さん
(八幡東区棚田地区)
委員歴 23年

活動のやりがいは

やりがいて難しいですね。ひとことで「これです!」というのはないです(笑)。けれども、長くやってこられたのは、地域の現状、これを放っておけないということを知ってしまったからには、何かお役に立てばいいかなと思ってやってきました。それが長く活動を続けることができた秘訣だと思います。

また、近所の一人暮らしの高齢者の方がその息子さんに「馬場さんは民生委員。何かあったら頼っていい」と言われたと私を頼ってきてくれました。いまの時代に公然と人から頼まれる存在でよかったと思います。

印象に残った出来事は

印象に残ったことは2つあります。一つは、母親のネグレクトで小学生の子どもが祖母のお世話を必要以上にさせられていたケースで、いまで言うヤングケアラーの事案です。区役所の子ども家庭相談コーナーの方とカンファレンスを何回も実施し、最終的に子ども総合センターにつなぐ支援ができました。

もう一つは、一人暮らしの高齢女性が「瓦が歪んでいるから直す」とか言って、法外な金額を悪徳業者に請求されていることを、その方の友人から相談を受けた案件です。本人を消費生活センターに連れて行き、クーリングオフの対応が間に合い、未然に詐欺まがいの行為を防ぐことができたことです。いずれの案件も民生委員として、少しでもお役に立てたのではないかと思います。

民児協役員(区役員)として活動の中で大切にしてきた思い

私たち民生委員の活動の中では、とにかく緊急なことが結構あります。訪問先の家の中で人が倒れているとか、連絡がとれないとか。そういう時に、役員である自分のところへ相談の電話がかかってきたときには、現場にいる民生委員が一番不安なのできちんとスピード感をもって早く対応してあげることを心がけています。

後輩の民生委員へのメッセージ

民生委員にならなかったら、知り合うことがなかった人たちに出会えたことは、すごく人生において幅が広がったと思います。いいことも悪いことも、自分の人生にとって何かの糧になっている、無駄にはならない。この世の中の役立つことに関われるのは、すごく素敵なことだと思ってほしいですね。



馬場 芳子さん
(八幡西区陣山地区)
委員歴 20年

民生委員・児童委員の活動をはじめたきっかけ

主人が町内会長をしているときに、陰でお手伝いをしていたのですが、そのこともあり、私に声がかかったのがきっかけです。はじめは、その時の地区民児協の会長さんが「ちょっとお宅に伺ってお願ひしたいことがある」と言われ家に来られたのですが、私ははっきり主人に用事があると思っていました。そしたら、私を民生委員に推薦したいというお話でした。

主人も同席し、話を聞いていましたが、「大変だろうけど、経験してみるのも、いい人生経験になるんじゃないか」と勧めてくれ、引き受けることになりました。いまでは、民生委員の仕事がわかり、「普通のボランティアかと思っていたけど大変な仕事だね」と言っています(笑)

活動のやりがいは

やはり命を救えたときですね。このまま明日明後日ぐらいいまで放っておいたら、ご自宅で亡くなっていたよねというようなことが、20年間で3回ぐらいい経験しています。区役所の方に電話をし、何もかも段取りよく繋がってくれたから救えたと思います。その際に、周りの方が「民生委員さんに連絡してよかったね」、「あんた助かったよ」と言う声を聞いた時に、私でも役に立ったんだなと感じていました。最初は、訪問しても「必要ないよ」とか言われたり、戸も開けてくれなかったり、それでも名刺代わりにカードや付箋を貼って「お元気ですか」と一言書いたりして、地域をまわった甲斐があったなとつくづく思います。

印象に残った出来事は

まだ民生委員になって、訪問の要領もわからない最初の3年間で8件の孤独死等の案件に対応したことで、一人暮らしの高齢者や50代の子どもが親の知らないうちに亡くなっていた案件をはじめ、自分の担当地区で起こったのですが、警察とか消防の方とかお話をしながら、ご家族に連絡するなど、わからないまま対応していました。やっぱり私たちでもお世話しようにも手の届かないところがありますが、主人をはじめ家族の応援で乗り越えることができました。

地区の活動の中で大切にしてきたこと

他の地域の民生委員の方も一緒だと思いますが、パートなどで働かれている方が多いので、近くの民生委員が働いている間に何かあれば、ほかの民生委員が訪問や電話をするなどお互いでカバーするようにしています。近くの民生委員に連絡が取れない時は地区会長の私に連絡してもらったり、2段階の形で皆さん活動してもらっています。

民生委員活動が負担にならないように、カバーできる体制を心がけています。家庭が無事であってこそその民生委員活動だと思うので、定例会でも無理がないようにいつも声掛けしてやっています。

後輩の民生委員へのメッセージ

定例会などを通じてしっかりコミュニケーションを取って欲しいですね。私がここまでできたのは、家族の応援と周りの民生委員とよくコミュニケーションを取ってきたから。ひとりで抱え込まないで報告してほしいです。地区の中にはベテランの民生委員もいるのでアドバイスしていただけたらと思います。

編集後記

今年は巳年、蛇の抜け殻を財布に入れると縁起がいいと言われていました。脱皮をする事から「復活と再生」を連想します。日本中で起きた災害が、一日でも早く復興することを願っています。今年も広報委員一同協力し、元気で楽しく活動していこうと思います。

広報委員(八幡西区)

野中 悦子

民生委員のQ&A

Q 世帯数などの変化にともない、担当地区割を変更したいのですが、どうすればいいでしょうか？
A 高齢者やひとり親家庭などの支援が必要な世帯の状況や地区民児協の意見を踏まえながら、変更することは可能ですので、まずは行政(保健福祉課)のちをつなぐネットワーク係にご相談ください。

地域の防災意識を 高めるために

若松区修多羅地区

民生委員児童委員協議会

会長 山本 三司

私達の地区は約1700世帯に65歳以上の年長者の方が1450名、75歳以上の方が770名いらっしゃる地域です。皆様お元気に活動されていますが、いわゆる虚弱(緊急時一人で避難することが難しい)といわれる方も、65歳以上の約一割強おられるのも現実です。

台風や地震によるものではなくても、昨今のニュースにおいてよく見かけるのは急なゲリラ豪雨等による土砂災害です。訪問やまちの行事等で年長者とお会いし、お話しした時に「若松は災害があまりなくていい所だね」と話されることが多く、防災意識に対して希薄な面が見受けられるところもあります。

しかし、私達の地区は約半分近くが土砂災害警戒区域に指定されている現実があることをいかに皆さんに理解していただけるのか疑問に感じています。実際に平成30年の豪雨災害で私たちの地域でも生活道路が土

砂崩れにより半年近く復旧が進まず、住民の方々が不便を強いられたこともありました。

まち協や社協といった所では、防災訓練や防災会議が機会ある毎に行われています。そのような取り組みが本場に隔々の地域の皆さまに行き届いているのか、いかに地域の皆さまに防災意識を高めてもらえるか、自治会やまち協はもちろんのこと、民生委員である私達の大きな課題であり、取り組むべき大きな事案だと思っております。

民生委員としてできることは、地域住民の方々への訪問等を通して『災害は何時でも起こりうる』、『避難所・避難方法の確認』等、地道に気長にお話ししていくことだと考えています。



活動最前線 ほつとひろば

リセットからの再出発

戸畑区民生委員児童委員協議会

主任児童委員会

委員長 高木 政則

新型コロナウイルス感染症に翻弄された約三年間を経て、メンバーも多くが代替わりして戸畑区の主任児童委員会も「主任児童委員とは何ぞや？」の状態からの再出発でした。

ご存じの通り戸畑区は市内でも一番小さな区ですので、どの地区も隣近所みたいなもので結構やりやすいと言えはやりやすい地域です。そこで私たちは小さな区・少ないメンバーを逆手にとって、もう一度仲間たちのコミュニケーションをとるところから始めました。昨年から恐る恐る懇親会を復活させ、今年6月には「とばた菖蒲まつり」にコーナーを頂いで出展しました。また、昨

年は一年を通じて要保護児童地域対策協議会とマッチアップした形で子ども家庭相談コーナーの方をお招きして、虐待等の生々しい実例を学びました。それを受けて今年、児童虐待防止



拠点病院の先生をお招きして被虐待児童の治療現場のお話をお聞きしました。また、最近では「子ども食堂」に焦点を当て、NPO法人として活動しておられる方をお招きしてご講演を頂きました。私たち主任児童委員は、民生委員児童委員と少し違って文字通り地域の子どもの達とどう関わっていくか、またその情報をどうやって手に入れていくかが必要とされています。

コロナ禍もそうでしたが、こうしているうちにも私たちの手を必要とする子ども達は存在しています。焦る気持ちを抑えつつ一つ一つ、以前の形を取り戻していくとともに、今の時代にアップデートされた主任児童委員の在り方といったものを皆で模索していきたいと考えています。